



工場見学のご案内

コカ・コーラ社製品を多くのおみなさまに親しんでいただくため、工場見学を実施しています。コカ・コーラ誕生のエピソードや歴史、品質管理や環境への取り組みをご紹介しますとともに、迫力ある製造ラインを見学いただけます。2016年は58,000人のお客さまに来場いただきました。

ご予約は各工場へお電話ください。

みなさまのご来場をお待ちしております。

多摩工場 ☎ 042-471-0463
(9:00~17:00 土日・工場休業日を除く)



東京都東久留米市野火止1-2-9
開催日: 毎週月曜日~金曜日・祝日(工場休業日除く)
※月に一度、土曜日にも開催しています。

蔵王工場 ☎ 0224-32-3505
(9:00~17:00 土日・工場休業日を除く)



宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1
開催日: 毎週月曜日~金曜日・祝日(工場休業日除く)
※月に一度、土曜日にも開催しています。

東海工場 ☎ 052-602-0413
(9:00~17:00 土日・工場休業日を除く)



愛知県東海市南柴田町の割266-18
開催日: 毎週月曜日~金曜日・祝日(工場休業日除く)
※月に一度、土曜日にも開催しています。

コカ・コーラ ボトラーズジャングループの工場見学

こちらの工場でも工場見学を実施しています！ぜひお越しください。

<p>京都工場 ☎ 0774-43-5522</p>  <p>京都府久世郡久御山町田井新荒見128 開催日: 毎週火曜日~日曜日(ただし、第一月曜日、祝日・振替休日除く)、年末年始、および臨時休館日あり</p>	<p>小松工場 ☎ 0898-76-3030</p>  <p>愛媛県西条市小松町妙口甲806-1 開催日: 毎週月曜日~金曜日 (土日・祝日・工場休業日除く)</p>	<p>えびの工場 ☎ 0984-25-4211</p>  <p>宮崎県えびの市大字東川北字有留1321-1 開催日: 毎週火曜日~日曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館日)、年末年始、および臨時休館日あり</p>
---	---	--

本レポートに関するお問い合わせ先

コカ・コーラ ボトラーズジャングループ

コカ・コーライーストジャパン株式会社

コーポレート・コミュニケーション本部

サステナビリティーマネジメント部

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3-13-6

Tel. 045-620-8187

Coca-Cola East Japan

<https://www.ccej.co.jp/>

© 2017 Coca-Cola East Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.



事前のご予約が必要です。



2016-2017

Sustainability Report

サステナビリティレポート



Coca-Cola East Japan

CCEJの サステナビリティって なに？

10年後、20年後、100年後の世界を思い、
行動に移そうとする人が増えています。

コカ・コーラ・イーストジャパン(CCEJ)では発足当初より
「サステナビリティ(持続可能な社会の発展)」に
思いをめぐらし、取り組んできました。

答えはひとつじゃないけれど、
今あらためて動き出す、そのために。

CCEJのサステナビリティを考えます。



CCEJのサステナビリティってなに？	P.1
CCEJのサステナビリティ①	P.2
製品を通じた取り組み	P.4
自動販売機を通じた取り組み	P.6
CCEJのサステナビリティ②	P.8
地域の水を守る取り組み	P.10
地域の発展を推進する取り組み	P.12
地域の人を支える取り組み	P.14
CCEJのサステナビリティ③	P.16
グローバルな人材を育てる取り組み	P.18
ワークライフバランスを支える取り組み	P.20
トップメッセージ	P.22
CCEJグループについて	P.24



me
お客さまの健康とハビネスに貢献する活動

 [飲料価値]
 [活動的/健康的な生活習慣]

we
地域社会に貢献する活動

 [地域社会]
 [職場]
 [女性]

world
持続可能な地球環境への取り組み

 [温暖化防止・エネルギー削減]
 [サステナブル・パッケージ]
 [水資源保護]
 [持続可能な農業]

編集方針

コカ・コーラ・イーストジャパン(CCEJ)は、飲料を通じてサステナビリティ(持続可能な社会の発展)に貢献することを目指しています。

当レポートでは、CCEJのステークホルダーである地域社会、消費者、サプライヤー・顧客、株主・投資家のみなさま、そしてともに働く従業員に、CCEJが目指す「サステナビリティとは何か」が伝わるようポイントをしばってお伝えします。

● 参考にしたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポートینگ・ガイドライン第4.0版」

● 対象期間

報告事例の対象期間は、2016年1月～2017年4月末までを原則としています。

データの集計期間は、2016年1月～12月末までです。

● 対象範囲

当レポートで開示しているデータは、コカ・コーラ・イーストジャパン(株)および関連会社における「製造」「物流・輸送」「販売」「回収・リサイクル」のデータです。

● 発行日

2017年7月

● 用語について

CCEJはコカ・コーラ・イーストジャパン(株)を指し、コカ・コーラ・イーストジャパングループ(CCEJグループ)はCCEJおよび完全子会社(FVイーストジャパン(株)、三国サービス(株))を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ(株)が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。CCBJIとは、2017年4月にコカ・コーラウエスト(株)との経営統合により発足したコカ・コーラ・ボトラーズジャパン(株)を指します。お客さまは顧客および消費者のみなさまを含みます。

サステナビリティとは、 社会に必要とされる企業になること。

サステナビリティと聞くと、自分とは関係のない、何か大きなことのように感じるかもしれません。しかしCCEJは、日々の業務を積み上げていくこそがサステナビリティだと考えます。例えば、「コカ・コーラ」を飲んでみんなが笑顔になる瞬間。そんな「うるおいのあるひととき」を提供することは、大事なサステナビリティです。製品を安心して飲んでいただくためには何ができる？ いつでも、どこでも、誰にでも、気軽にお求めいただくにはどうしたらいい？ CCEJは常にお客さまの声に耳を傾け、社会の役に立つことで、ずっと必要とされる会社であり続けることを目指しています。



お母さんにも
子どもにもうれしい
飲料がほしい

おいしく飲んで
カロリーも
コントロールしたい



おいしい
トクホコーラが
ほしい



シーンに
合わせたサイズを
選びたい

- 4 → 製品を通じた取り組み
- 6 → 自動販売機を通じた取り組み

関連情報

お客さま対応

→ 26



製品を通じた取り組み

【飲料価値】 【活動的/健康的な生活習慣】

CCEJでは、消費者のみなさまのライフスタイルや嗜好に合わせた豊富な製品ラインナップをとりそろえています。また、製品・サービスに関するお客さまのご意見・ご要望やご指摘は重要なコミュニケーションの機会として、迅速に対応・改善できる体制を構築しています。お客さまの声をかたちにし、高品質で安心できる製品を提供することがお客さまの信頼につながるという考えに基づき、安全に配慮した製品づくりを徹底しています。

主な製品 ラインナップ



- 炭酸飲料
- 水
- コーヒー飲料
- フレーバーウォーター
- スポーツ飲料
- アクティブスタイル飲料
- 茶系飲料
- 特定保健用食品
- 果汁飲料
- 機能性表示食品
- エネルギー飲料

品質へのこだわりが 「おいしい」につながる

CCEJでは、コカ・コーラシステムがグローバルで展開しているマネジメントシステム「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)※」とISOなどの国際規格を遵守することによって、製品の品質と安全性を高めています。原材料の調達から製造を経て、お客さまのお手元にお届けするまで、安全で高品質なサービスを提供できるよう細心のオペレーションを実践し、「うるおいのあるひととき」をお届けします。

※原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経て、お客さまに製品をお届けするまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したコカ・コーラシステム独自のマネジメントシステム。

関連情報

準拠している
国際規格

➔ 27



製品がお客さまに届くまで





自動販売機を通じた取り組み

【飲料価値】 【温暖化防止・エネルギー削減】

いつでも、どこでも、誰にでも、おいしい飲料を届けることができる自動販売機は、重要なインフラのひとつであると考えます。市場に展開している55万台以上の自動販売機(クーラー、ディスペンサー含む)を通じて、多様化するお客さまのニーズに応えています。また、消費電力量やCO₂排出量の削減といった環境保全に対する取り組みはもちろん、災害時に製品供給などの支援を行うほか、自動販売機の利便性を活かした取り組みを進めています。

女性のニーズを反映した 女性向け自動販売機誕生

2016年、女性のニーズに合わせた「女性向け自動販売機」を開発し、千葉県千葉市に第1号機を設置しました。開発のきっかけになったのは、男女別自動販売機の購入比率が実は男性に大きく偏っていた点です。それにより、一般に女性の利用が多い場所でも、女性を意識した仕様になっていませんでした。この「女性向け自動販売機」を開発するにあたり、お茶・水・果汁製品など女性の視点を意識したラインナップの充実や、常温コーナーをつくることで身体の冷え防止や持ち歩き時の水滴防止のニーズに応えました。今後も今まで以上にコカ・コーラ社製品を手にとっていただけるよう、みなさまのニーズに合わせた自動販売機の提案を行います。

華やかな

デザインで
見て楽しい

女性に
うれしい
品ぞろえ

常温

コーナーを
新設

ミラーがついていたり、
ストローもお持ち帰りできます!

もしものために

災害支援型自動販売機

地震などの大規模災害発生時、自動販売機に搭載のメッセージボードで災害情報を流したり、自動販売機内の飲料を無償で提供するなどの支援を行っています。東日本大震災発生時には避難所で帰宅困難者に飲料を提供しました。

災害時、
電光掲示板には
災害情報が
流れます。



最長

16時間

日中の冷却
運転を停止

24時間

いつでも
冷えてる

最大時

95%

消費電力を
削減

自動販売機をもっとエコに ピークシフト自販機

CCEJでは、従来の自動販売機に比べて最大で95%の消費電力を削減できる「ピークシフト自販機」を2013年から展開しています。2016年までに75,063台の「ピークシフト自販機」を市場へ導入しました。

また、CCEJが展開している機材において製品冷却に使用されるフロン(冷媒)からの脱却は、CO₂削減にむけた重要な課題です。2020年までに市場に導入されたすべての自動販売機をノンフロン化する計画です。

「ピークシフト自販機」の台数 (2016年)

75,063台

2015年比 +10,941台



関連情報

製品1Lあたりのエネルギー使用量(EUR)推移

→ 26

関連情報

CO₂排出量

→ 26

関連情報

市場に導入されているノンフロン自動販売機の割合

→ 26



サステナビリティとは、 地域とともに成長すること。

サステナビリティとは、企業の成長と、すべての人々の幸せを両立させることだと考えます。なぜなら、提供する飲料がどんなに素晴らしくても、それを買い、必要としてくれる人々がいなくては、CCEJの事業は立ち行かなくなるからです。だからこそ、活気ある地域社会と、人々の健やかな生活を支えること、そして地域の環境を守ることを大事にしています。CCEJは、地域に寄り添い、価値を提供することで、これから先もずっと地域のみなさまとともに発展する会社であり続けます。

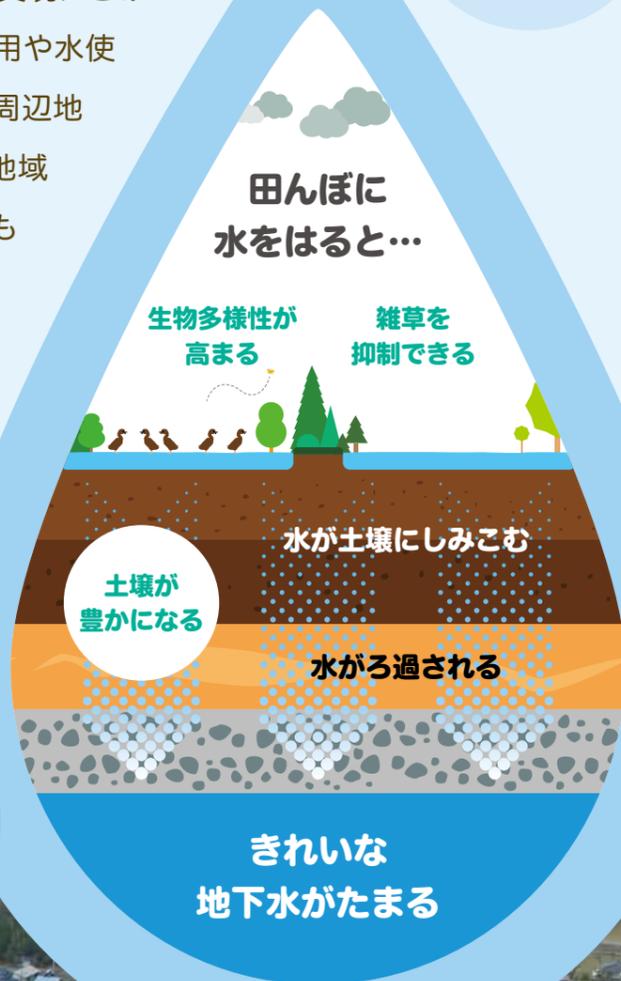


とうきたんすい 冬期湛水って知っていますか？

私たちにとってかけがえのない資源である水を守るため、コカ・コーラシステムでは使った水を100%自然に還すウォーター・ニュートラリティーの実現にむけて取り組んでいます。工場では、水の再利用や水使用量の削減に努めています。さらに、工場周辺地域の水源を守ることを何よりも重視し、地域コミュニティとのパートナーシップのもと、その地域の専門家の方々と協力しながら、持続可能な水源を育むための活動を展開しています。その事例として、神奈川県海老名市での取り組みをご紹介します。

冬期たんすいとは、
稲刈りが終わった
水田に冬の間も
水をはる農法です。

冬期たんすいの
メリット



お話を伺った
神奈川県相模川左岸土地改良区 技師
塩脇 和弘さん

地域の特徴に合った 水資源保護を目指して

海老名工場がある神奈川県海老名市は、広大な平地と相模川の豊かな水に恵まれた都市農業地域です。相模川左岸地域は海老名工場の水源域であり、CCEJは協定締結のもと水資源保護活動を推進しています。また、地域の特徴に合わせた活動を展開することに重きを置き、この地域で行われている冬期通水・冬期たんすいと呼ばれる取り組みに水源を涵養する効果があることに着目。米づくりの終わった冬の田んぼへ水をはって管理するこの活動に、2015年から参画しています。

「冬期通水・冬期たんすいを始めた目的は、用水路の凍結防止とゴミの滞留防止がきっかけでした。10年ほど前から活動しているのですが、これまで続けることができたのは、水がもたらす多くの恩恵があったからです」と、同地域の用水路管理を行う神奈川県相模川左岸土地改良区の塩脇さんは話します。

企業と地域の協力が 活動を次のステージへ

2015年に当地域の水資源保護活動を計画していたCCEJとのコラボレーションがスタート。「やはり、グローバル企業の発信力は違います。一地区の取り組みを世界中に発信できる。これはすごいこと。今後、この取り組みを広げていくためにも、CCEJの環境保全プログラムの開催や情報発信力に期待しています」そして「自然が相手ですから、数年でガラリと変わるということは難しい。だからこそ同じ地下水を守る仲間であるCCEJとの長期的なコラボレーション

関連情報

製品1Lあたりの水使用量 (WUR) 推移

→ 26

関連情報

ウォーター・ニュートラリティー

→ 26

で、美しい田んぼを次の世代へ、未来へとつなげていくことが重要」と塩脇さんは話してくれました。

想いを共有し 未来を拓くために

冬期たんすいを理解し、さらに活動を広げていくため、昨年から日本大学生物資源科学部の笹田准教授に調査を依頼しました。

「冬期たんすいにはさまざまなメリットがあります。まずは、環境保全の側面。冬にも水をはることで湿地状態が続く田んぼでは、さまざまな水生生物の生息が可能になります。そして、それらをエサとする水鳥が飛来するなど、生物多様性の向上に大きく寄与します。また、地下水の涵養効果も見逃せません。田んぼの土にしみこんだ水は時間をかけてろ過され、きれいな水となって地下水脈を潤していくのです。農業へのメリットもあります。水をはることで土中の有機物は分解されにくくなり、高い栄養状態が保てます。冬の間自然に土づくりが進み、肥料や農薬を減らすことにつながります。さらには、水があるおかげで雑草も生えにくく、土は柔らかくなって耕す際の負担が軽くなります」と笹田先生は教えてくれました。

海老名市での冬期たんすいは、まだ始まったばかり。豊かな未来への想いを共有しながら、協働活動は続きます。



お話を伺った
日本大学 生物資源科学部
生物環境工学科 准教授
笹田 勝寛さん

爽健美茶の茶がらで育った牛が広げる地域の輪とは？



CCEJ蔵王工場がある宮城県刈田郡蔵王町は、豊かな自然に恵まれた、観光と農業の町。ここで、蔵王工場、蔵王酪農センター、宮城県蔵王町の3者が協力し、かつては産業廃棄物として捨てられていた茶がらや乳清を有効活用する取り組みが進んでいます。蔵王工場の環境へ配慮した活動と地域振興の両立にむけた取り組みを紹介します。

その始まりは “もったいない”の一言から

蔵王工場は1996年、旧仙台コカ・コーラボトリング株式会社の生産拠点として操業を開始。現在は「爽健美茶」に代表される茶系飲料を主として、約100種類のコカ・コーラ社製品を扱っています。

蔵王工場の「爽健美茶」製造過程から出る茶がらと、蔵王酪農センターの「蔵王チーズ」製造過程から出る乳清は、産業廃棄物として地域外で処分されていました。しかしながら、廃棄される茶がらや乳清にはたくさんの栄養素が含まれていることに着目し、地域資源として有効活用できないかと、2008年に蔵王工場(当時は仙台コカ・コーラプロダクツ)、蔵王酪農センター、行政、生産者が共同で飼料化する研究を開始しました。2010年には、蔵王町の良質な牧草に茶がらと乳清を加えたエコフィード^{※1}が誕生。「乳茶餌(ニューチャージ)」と名付けた新しい飼料の牛への給餌が始まりました。

廃棄物削減から 広がる大きな可能性

「乳茶餌」で育った牛の肉は、おいしさの指標といわれるオレイン酸の含有量が多いことがわかりました。そこで「乳茶餌」を食べて育つ肉牛を「蔵王爽清牛」と命名。関係者が連携しながら、おいしくてエコな牛肉として蔵王町の特産品に育てる取り組みがスター



トしました。「爽健美茶」の茶がらで育った「蔵王爽清牛」の取り組みは、蔵王町観光と工場見学・酪農体験に「蔵王爽清牛」の食事をセットにした「親子で楽しむ蔵王町体験ツアー」の開催や、社会科見学や学校給食・地元飲食店への取り扱い推進などにまで広がり、廃棄物削減活動の枠を越え、地域振興策としても注目されるようになりました。こうした活動が認められ、2017年2月には蔵王酪農センターと蔵王町、CCEJの3者連名で「第4回食品産業もったいない大賞^{※2}」の農林水産省食料産業局長賞を受賞しました。

地球に優しく地域の活性化にもつながる活動として大きな可能性を秘めている「蔵王爽清牛」。CCEJでは地域のみならず、資源循環型社会の実現を目指し取り組んでいきます。

※1 食品残渣を利用した家畜の飼料のこと。飼料自給率向上の観点から農林水産省が積極的に推進している。

※2 食品産業の持続可能な発展にむけ、環境対策の一環でもある「エネルギー・CO₂削減」「廃棄物削減・再生利用」「教育・普及」等の観点から、顕著な実績を挙げている食品関連事業者、ならびに、食品産業によるこうした取り組みを促進・支援している企業、団体および個人を広く表彰し、世の中に周知することで、食品産業全体での地球温暖化・省エネルギー対策および食品ロス削減等をより一層促進することを目的とする、一般社団法人日本有機資源協会主催、農林水産省協賛の賞。

CCEJは地域のみなさまの チャレンジを応援します！

CCEJは、地域に根ざしたボトラー社として、地域活性化にむけ、専門性を有するNPO・NGOと協働し、地域の活動の輪を広げています。

チャレンジインターンシップ事業を通じた 若者支援の活動

CCEJでは、2016年より若者の学び・体験支援に取り組んでいます。

その一環として、福島県が主催し、ふくしま地域活動団体サポートセンターが運営している「チャレンジインターンシップ事業」への協力を行っています。同プログラムは、福島県の再生に若者が参加することを目的として、主に高校生や大学生が夏休み期間中に福島県内のNPO法人でインターン活動を行います。活動を通じて、地域の課題解決などについて学び、経験しながら、福島県の復興に貢献することを応援する取り組みです。CCEJはさまざまなシーンで支援を行いました。地元を支えたいと願う若者を末永くサポートできるよう、今後も活動を盛り上げていきます。

活動報告会の
オープニング
ムービーはこちら



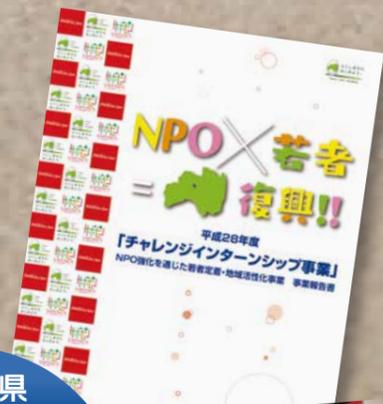
コーポレート・コミュニケーション本部
コミュニティ・リレーション部
遠藤 巧

福島県

Coca-Cola East Japan

NPO × 若者
= 復興!!

被災地の復興など、地域の活性化を進める上で最も大切なことは地元を支えたいと願う一人ひとりの想いです。私たちは、これからも地域が抱える課題に耳を傾け、行政や市民団体と協働で事業を展開し、地域社会にとって良きパートナーであり続けます。



企業と私たち、
そして受け手それぞれの
顔が見える関係が理想。
より一層の協働関係を
築いていきたい。

フードバンクの活動を
他のボトラー社や
飲料業界にも広めたい。

セカンドハーベスト・ジャパン
フードバンク部
食品衛生責任者/倉庫管理主任者
伊藤 令華さん

コーポレート・コミュニケーション本部
フードバンク製品寄贈プログラム担当
福澤 豊



取材・撮影協力：
社会福祉法人 子供の町(埼玉県春日部市)

フードバンクを通じた 製品寄贈プログラム

フードバンクとは「食料銀行」を意味する言葉で、まだ食べられるのに処分されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や人に届ける団体や活動のことをいいます。このフードバンクを日本で初めて行ったのが、CCEJがパートナーシップを結んでいるセカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)です。

2016年4月、2HJを通じ、毎月継続的に製品寄贈を行う取り組みを日本のボトラー社として初めて実現しました。「製品寄贈は、地域社会へ貢献するだけでなく、製品在庫の廃棄量やコストを減らし、農林水産省の食品ロスの低減施策にも沿っています。CCEJが寄贈した飲料は、2017年4月時点で累計1万6千ケースを超えました。また、熊本地震発生の際には社内に備蓄していた食料を2HJを通じ被災地域に送り届けることができました」と、フードバンクをCCEJに導入した

コーポレート・コミュニケーション本部の福澤さん。
CCEJが寄贈する飲料は、2HJだけでなく、東日本地域に所在する多くのフードバンクを通じて、社会福祉法人や日常生活に困窮している個人に対し提供されています。「今後はCCEJの製品在庫、品質、安全衛生管理に関する知識やノウハウの共有にも期待しています」と2HJの伊藤さんはおっしゃいます。
また、2017年4月からCCEJは全国フードバンク推進協議会とも包括的パートナーシップを結び、製品寄贈プログラムを拡大しています。
これからも安定的かつ継続的な製品寄贈を通じて一人でも多くの方たちが笑顔になってほしい、そのような思いを胸に取り組みんでいきます。

全国フードバンク
推進協議会
プレスリリース



サステナビリティとは、 人を大切にすること。

CCEJには10,000人を超える従業員がいます。その従業員一人ひとりの生活が充実したものにならないければ、事業を発展させていくことはもちろん、ステークホルダーのみなさまに幸せをお届けすることはできません。従業員はCCEJのサステナビリティを支える原動力です。人という資産＝人財の価値を高めるべく、学習や成長の機会を提供し、活躍できる場を創出することは企業としての責任であり、サステナブルな未来につながる鍵です。

Growing Opportunities by Leading in Diversity

18 → グローバルな人材を育てる取り組み

20 → ワークライフバランスを支える取り組み

人事方針の
詳細はこちら



グローバルな人材を育てる取り組み

【職場】 【女性】

CCEJは事業の持続的成長を実現するために、世界で通用するワールドクラスのボトラー社になることを目指しています。この目標実現に欠かせないのがグローバル人材の育成・強化であり、世界のコカ・コーラシステムとの情報交換や交流を積極的に図っています。その一環として、2016年にコカ・コーラ・チャイナ(台湾ブランチ)へ赴任されたFSO首都圏第一統括部の高山さんに、若手社員を代表して同じく葛飾セールスセンターへ勤務する田辺さんがインタビューしました。グローバルに活躍するための秘訣を探ります。

赴任のきっかけと
現地での仕事内容を
教えてください。



当時の私は商業本部をコーディネーションする業務をしており、上司はコスト本部長でした。社内で働く外国人や海外からのビジターとも接する機会が多かったため、自分もいつか海外で活躍したいという夢を持つようになりました。そこで、上司とのキャリアプラン面談においてその旨を話し、タイミング良く先方からもオファーがあったため、2016年4月から約5ヵ月間、台湾ブランチにマーケティングコンサルタントとして赴任することが決まりました。

私は以前、営業企画部でプランニング業務を推進しており、当時新チャネルであったHORECA(ホテル、レストラン、カフェ)の立ち上げにも携わりました。これらの経験を通じて培ってきたマーケティングスキルが私の強みですので、台湾ブランチではその強みを生かし、飲料マーケット拡大プランの作成、顧客理解の促進、データ分析能力の向上等のサポートを行いました。



FSO首都圏第一統括部
フィールドセールス統括部長
高山 尚三



台湾で
新しい発見は
ありましたか？



私が配属されたマーケティングファンクションは、マネジャーを含め25人全員が女性でした。ただ、台湾では特に珍しいことではなく、夫やお子さんのいる女性も数多く働いていました。台湾には女性活用という面で日本が見習うべきポイントがあるように思いました。

また、先にも述べた私の上司が「海外で仕事をする上で大事なことは、その国の文化や人をリスペクトすることだ」と話していたことが私の心に強く残っていました。台湾は親日国であり、多くの台湾人は日本のことをよく知っています。私も彼らのことをよく知るため、彼ら(正確には彼女ら)と彼らの文化を常にリスペクトし生活していました。

日々のコミュニケーションについては、中国語(北京語)を英語に通訳してもらう形で取っていました。私自身少なからず英語の勉強はしていましたが、言葉については「為せば成る」というのが正直な感想です。

インタビューを終えて

高山さんが「大事なのは自分の強みを持つこと。仕事の核となる部分をひとつ持つこと」とおっしゃっていたのが印象的でした。そして「田辺さんの核が何なのかは田辺さんにしかわからないことだよ」と話してくれました。将来自分がどうなりたいかを考え、まずは目標設定をすることが大事だと感じました。

フィールドセールスオペレーション統括部
FSO首都圏第一チェーンストア販売部
FSO CS東京第三支店 葛飾セールスセンター
CS セールススレップ
田辺 美穂

若手社員に
何かアドバイスを
いただけますか。



私は二十数年前、自動販売機の販売管理を担当するセールスマンとしてコカ・コーラでのキャリアをスタートしました。その当時は、海外で働くということ考えたことはありませんでした。その後、CCEJとなり、組織のグローバル化が進むにつれて、外国人が日本に来るように、日本からも海外に行けるのではないかと考えるようになりました。

チャンスは、人にも会社にも無限にあると思います。自分で職務や環境を選ぶことができます。ぜひ自ら手を挙げてチャレンジしてください。仕事を通じ、自分の能力や活躍の幅を広げてほしいと思います。

現在、私は東京都と神奈川県エリアにおいて、フィールドビジネスを統括する立場にあり、数多くのメンバーとともに働いています。今後は、さまざまな機会を提供してくれたコカ・コーラシステムに対し、国内外で活躍できる人材やリーダーを育てることで恩返ししていきたいと考えています。年齢、性別、国籍にかかわらず、能力や意欲のある人材の育成に力を注いでいきます。

ワークライフバランスを支える取り組み

【職場】 【女性】

CCEJでは、従業員一人ひとりが仕事とプライベートを両立して、生産性の高い効率的な働き方ができるようサポートする制度が充実しています。ダイバーシティ推進チーム「GOLD」の活動は2017年で4年目を迎え、女性社員だけでなく男性社員も参画し、全社的な取り組みとして育っています。第一子誕生を機に41日間の休暇を取得したHR本部の古池さんの体験から、ワークライフバランスを実現するためのヒントを探ります。



ライフイベントも大切にしていきたい

2016年4月に娘が誕生しました。この貴重な機会を大切にしたいとの思いから、約2ヵ月間の休暇を同年の7月から8月にかけて取得しました。休暇中は、妻と娘と3人で出かけるなど、家族との時間を十分に取ることができました。また、働きながらではなかなか難しいですが、遠方に住む祖母に娘を見せに行くなど、充実した時間を過ごすことができました。

私の場合、娘が生まれる数ヵ月前に休暇を取得したいと、まず上司に相談しました。上司は「貴重な体験ができるから」と背中を押してくれましたし、チームのみんなも快く協力してくれたことが大きかったです。今回の休暇は、協力し合う風土が根付いているCCEJだからこそ実現できたと感じています。

HR本部
コンベンション&ベネフィット部
コンベンション課
スーパーバイザー
古池 拓哉

奥さまから見た古池さん

主人は休暇中に娘のオムツを替えたりお風呂に入れたり、積極的に家事や育児に参加してくれました。また、私が気分転換できるようにと1人の時間をつくってくれ、とても助かりました。家族思いのやさしいパパです！

多様な働き方を認め合うことが大事

休暇を経験し、いろいろな働き方があるということをおぼろげに感じました。私の場合は育児のための休暇でしたが、家族の介護などを理由に、働き方を変えなければいけない場合もあるかもしれません。ダイバーシティという、女性の活躍がフォーカスされがちです。しかし本来は全従業員がプライベートも大事にしながらメリハリのある働き方をし、個人がベストなパフォーマンスを発揮することだと思います。CCEJには、フレックスタイム制度や育児短時間勤務制度など従業員の働き方をサポートする制度があります。私の体験を話すことで、こんな働き方ができると社内の人にもっと知ってほしいです。そして、私自身がCCEJの目指すダイバーシティを実現する一助になればうれしいです。

先輩から見た古池さん

変化をチャンスととらえ挑戦する古池さんの姿は、周囲のモチベーションを高める存在です。復帰してからは同僚の仕事だけでなく、ライフスタイルも理解しながら、人を尊重する仕事でチームをリードしています。

ダイバーシティ推進チーム「GOLD」

Growing Opportunities by Leading in Diversity

(成長) (機会) (主導) (多様性)

2016年は「女性社員の意識改革」「管理職/男性社員の意識改革」「女性社員パイプライン強化」「インフラの整備」というテーマに則った活動項目に基づき、女性社員フォーラムや管理職トレーニングの開催、男性社員の育児休暇取得推進、女性用設備の充実といった環境整備等に取り組みました。

2020年にあるべき姿

採用	採用候補者のうち少なくとも50%が女性
就労	社員の20%が女性
育成	100人の女性マネジャー
ワークライフバランス	子どもが生まれる男性社員の100%が育児休暇を取得

関連情報
従業員数の状況(連結)
→ 27

LIFE

WORK



サステナビリティの向上は、企業の生命線



CCEJは、2013年の設立以来、お客さま、取引先、株主、従業員など、事業活動に関わるすべてのステークホルダーのみなさまへの価値提供を目指して歩みを進めるとともに、事業の持続的な発展に必要不可欠であるサステナビリティ（持続可能な社会の発展）の取り組みに注力しています。

私たちのビジネスは、サステナビリティの考え方とともに歩んできたと言っても過言ではありません。ワールドクラスのボトリング会社を目指しながらも、地域に密着したビジネスを展開することで、地域経済や人々の生活に貢献しています。

近年、市場の成熟化や少子高齢化など、私たちを取り巻く環境は厳しい状況です。しかしながら、CCEJはこのような逆境をサステナブルな躍進の機会と捉え、自らのビジネスをかつてないスピードで変革し成功へと導きました。これからは従来にはないビジネスイノベーションで、環境の変化に柔軟に対応し、明るい未来を切り拓きます。



そのためには第一に、高品質なサービスで多くのお客さまへさわやかな瞬間とうるおいをお届けします。清涼飲料水を通じて、「おいしさ、健康、楽しさ、安らぎ」などさまざまな価値を提供し、地域社会とともに成長していくことは、私たちのビジネスにおいて大きな推進力となります。同時に、製品およびサービスに関して安全への配慮に万全を期し、みなさまの信頼に広くお応えしていくことも重要な使命です。

また、私たちには美しい自然を育み、活気あふれる地域社会と人々の健やかな生活を、次世代へとつないでいく責任があります。今後も地域とのパートナーシップを通じて、貴重な資源を守り、地域の特色に合わせたさまざまな環境保全活動を展開していくことをお約束します。

さらに、企業のサステナブルな成長を支えるのは「人」であり、従業員一人ひとりが仕事と生活の調和を目指し、夢ややりがいを持って働ける環境を充実させることは企業の競争力を高めます。そこで近年は、各部署における教育制度の一層の充実を図るとともに、グローバル水準で働けることを見据えた人材育成にも力を注いでいます。また、各々のライフステージに合わせて生産性の高い働き方を選択できるよう、ワークライフバランスに配慮した働き方改革にも努めています。

2017年4月1日、CCEJは、近畿・中国・四国・九州地方を営業地域とするコカ・コーラウエスト株式会社と経営を統合し、新たに誕生したコカ・コーラ ボトラーズ ジャパン株式会社 (CCBJ) の傘下となりました。しかしながら新しいグループ体制となっても、目指すものは変わりません。今後も清涼飲料水の製造・販売という事業の幹を太くするため、環境保護や地域ごとの社会貢献プログラム、職場環境の充実へむけた投資などを通じて、サステナブルな成長という大きな価値を結実させていきます。

最後に、CCEJは経験やノウハウを結集し、さまざまな社会課題の解決を通じて企業として成長の歩みを止めません。これは、変革を恐れず新しい価値の創造にチャレンジし、お客さまの笑顔や地域社会の発展につなげることと同義です。全社一丸となり、日本の清涼飲料業界をリードするという気概で、飲料ビジネスを通じたサステナブルな未来の実現にむけて、地域社会のニーズに耳を傾けながらたゆまぬ前進を続けていきます。



コカ・コーラウエストジャパン株式会社
代表取締役社長

吉松民雄

CCEJグループについて

CCEJグループは、日本のコカ・コーラシステムにおいて年間販売数量の半分を占める日本最大のボトリング会社です。
2017年4月、CCBJIグループの一員となり、事業統合や従業員およびシステムなどへの投資を通じ、さらなる変革を推進していきます。

従業員数
(正社員、臨時従業員計)
10,671
人

販売エリア
東京都/神奈川県/静岡県/山梨県
愛知県/岐阜県/三重県/埼玉県
群馬県/新潟県/千葉県/茨城県
栃木県/宮城県/福島県/山形県
1都15県

販売地域の人口※
約6,700
万人

物流拠点/営業所数
約180
カ所

※2016年1月1日住民基本台帳人口・世帯数、2015年人口動態(都道府県別)(総計)をもとに算出。

売上高
約5,724
億円

飲料ブランド数
50
種類以上

販売数量
(年間実箱ベース)
約31,799
万ケース

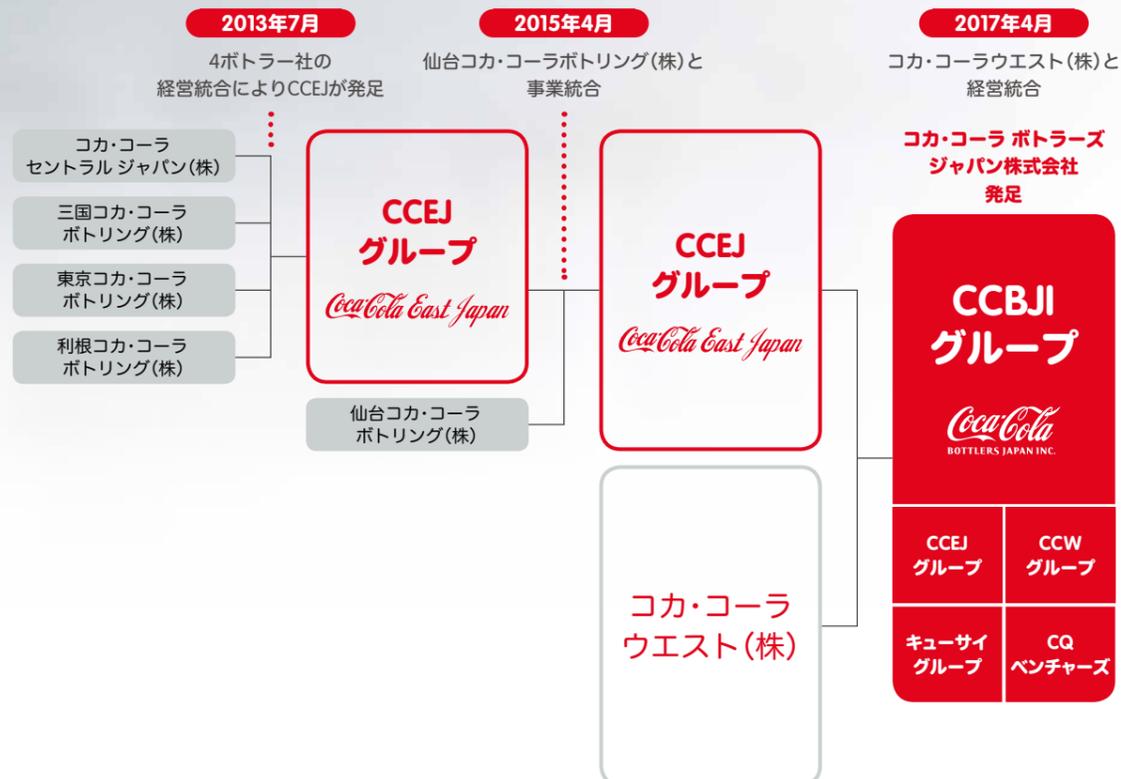
販売店舗数
20万軒
以上

自動販売機・クーラー・
ディスペンサーの数
55万台
以上

生産拠点
蔵王工場/茨城工場/埼玉工場
岩槻工場/多摩工場/海老名工場
白州工場/東海工場
8
工場

2016年12月末時点

沿革



会社概要 (2017年4月1日現在)

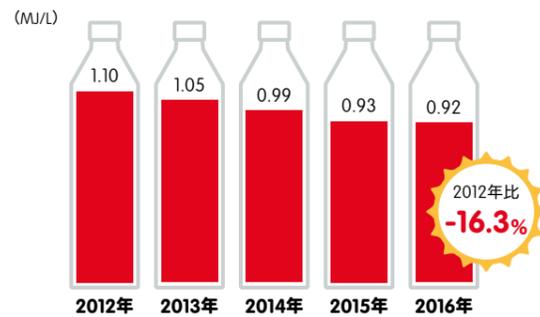
商号	コカ・コーラ イースト ジャパン 株式会社 (英文社名: Coca-Cola East Japan Co., Ltd.)
グループ会社	FVイーストジャパン株式会社 三国サービス株式会社 (2016年10月、コカ・コーラ イースト ジャパン プロダクツ 株式会社を吸収合併)
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂六丁目1番20号 国際新赤坂ビル西館
代表者	代表取締役社長 吉松 民雄
事業内容	清涼飲料水の製造、加工および販売
設立年月日	2001年6月29日 (2013年7月1日、コカ・コーラ イースト ジャパン 株式会社に商号変更)
資本金	64億99百万円 (2016年12月31日現在)

COCA-COLA, コカ・コーラ, COCA-COLA ZERO, コカ・コーラ ゼロ, COCA-COLA PLUS, コカ・コーラ プラス, GEORGIA, ジョージア, 爽健美茶, そうけんびちゃ, からだ巡茶, Advance, からだすこやか茶, にごりほのか, 綾鷹, あやたか, つむぎ, KOCHAKADEN, 紅茶花伝, 太陽のマテ茶, AQUARIUS, アクエリアス, AQUARIUS ZERO, アクエリアス ゼロ, FANTA, ファンタ, SPRITE, スプライト, REAL GOLD, リアルゴールド, Qoo, クー, MINUTE MAID, ミニッツメイド, LOHAS, い・ろ・は・す, 森の水だより,

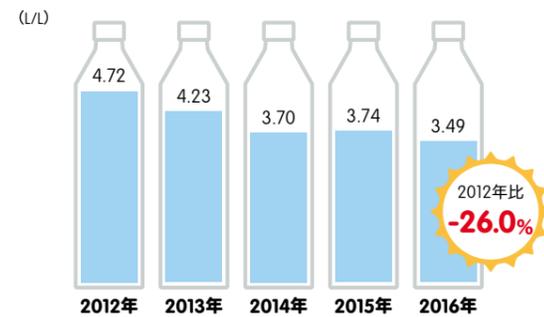
YOGUR STAND, ヨーグルスタンド, WORKS, ワークス, Dr Pepper, ドクターペッパー, は, The Coca-Cola Company Limitedの登録商標です。
CANADA DRY, カナダドライ, Schweppes, シュウェッップス, は, Atlantic Industriesの登録商標です。
Glaceau, グラソー, は, Energy Brands Inc.の登録商標です。
©The Coca-Cola Company

環境パフォーマンス

製品1Lあたりのエネルギー使用量(EUR)推移



製品1Lあたりの水使用量(WUR)推移



CO₂排出量 (2016年/421,400t[※])

※ 製造、物流、営業、オフィス部門の全CO₂排出量



市場に導入されているノンフロン自動販売機の割合

(2016年)



ウォーター・ニュートラリティー

製品に使用した水の自然への還元率

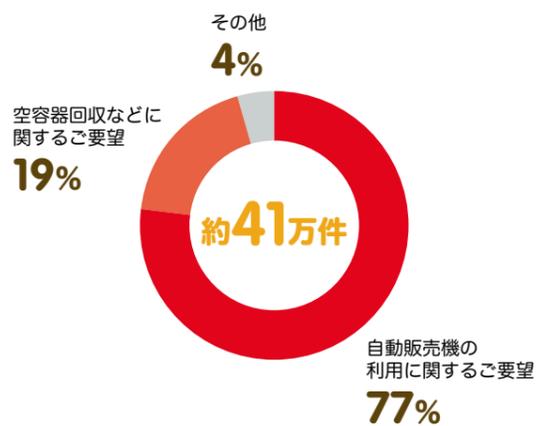


CCEJでは、2020年までに製品に使用した水を100%還元する目標を掲げています。植林や間伐などの水資源保護活動によって、2016年の還元率は143%となり、目標を達成することができました。

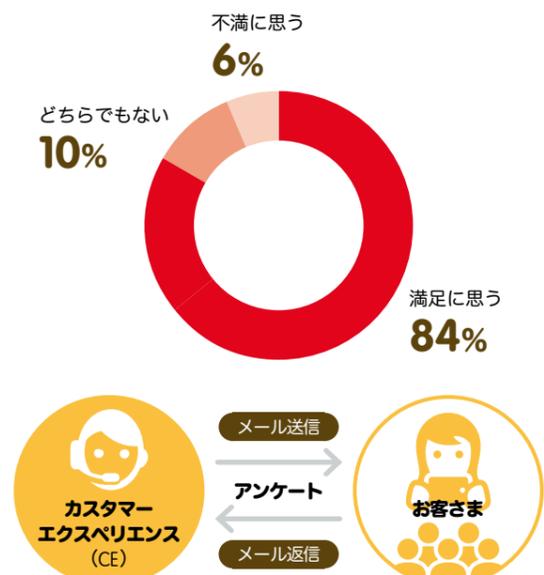
※ 環境関連データは、現在のCCEJエリアに存在する(あるいはかつて存在した)すべての工場を対象として、2012年以降、年度ごとに算出しています。現在(2016年)と経営統合前(2012年)とを比較しています。

お客さま対応

お客さまからいただいたお問い合わせやご要望



お客さま満足度調査



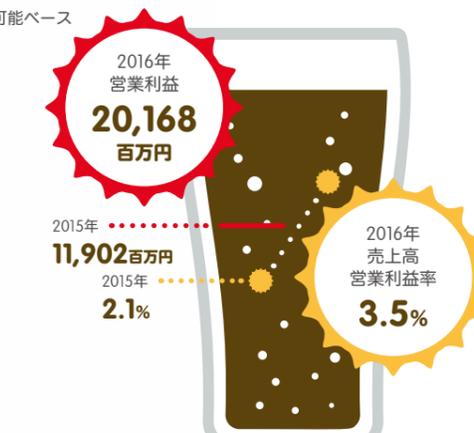
財務情報

売上高



営業利益[※]・売上高営業利益率[※]

※比較可能ベース



親会社株主に帰属する当期純利益



準拠している国際規格

品質マネジメントシステム	ISO 9001
環境マネジメントシステム	ISO 14001
食品安全マネジメントシステム	FSSC 22000
労働安全衛生マネジメントシステム	OHSAS 18001
苦情対応マネジメントシステム	ISO 10002 (JIS Q 10002)

従業員数の状況(連結) (2016年12月31日現在)

従業員数 ^{※1}	男性 8,547人	女性 2,124人
平均年齢	41.1歳	
平均勤続年数	16.8年	
管理職任用者数	1,071人	
女性管理職任用者数	47人	
女性一般職任用者数	760人	
育児休業制度利用者数	45人	
非正規雇用からの社員登用者数(2016年通年)	120人	
定年退職者再雇用者数	50人	
新卒3年後の定着率 ^{※2}	79.48%	
介護休業取得者数	1人	

※1 従業員数は正社員、臨時従業員を含む。

※2 2014年の新卒採用者数から、2016年末までの退職者数を除いた現在の在籍割合。

環境方針

基本理念

コカ・コーライーストジャパングループは、自然環境に配慮しながら豊かでうるおいに満ちたまちづくりに貢献していきます。地域社会やステークホルダーとともに環境保全活動に取り組み、私たちのビジネスが環境に与える影響に配慮し、「責任ある企業市民」として責務を果たします。

行動指針

基本理念を実現するために、次の行動指針を定めます。

- 1 法令遵守** 環境関連法規・条例・各種協定、および自主基準を遵守します。
- 2 環境負荷の低減** 省エネルギー、省資源、環境負荷の低減を図ると同時に汚染の予防に努め、自然環境へ配慮します。
- 3 環境投資** 適切な経営資源を投入し、3R「リデュース(排出抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生)」を推進します。
- 4 コミュニケーション** 地域とのコミュニケーションを大切に、環境保全の重要性を多くの人々に理解していただけるよう、積極的な役割を果たします。
- 5 環境教育の実施** 地域の方々、そしてコカ・コーライーストジャパングループの事業活動に係わる全ての人に対し、各種環境教育制度を導入することで意識の向上を図ります。
- 6 仕組みの見直し** 環境目標およびマネジメントシステムを定期的かつ必要に応じて見直し、継続的改善に取り組みます。

～この環境方針は全従業員へ周知するとともに、社外へ公表します。～

2017年4月1日
コカ・コーライーストジャパン株式会社
代表取締役社長
吉松 民雄

事業運営の考え方

倫理・コンプライアンス

当社は、企業の社会的役割や責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、従業員一人ひとりが誠実に行動するための基本事項を定めた「事業運営規範」に基づき、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。

当期(2016年)においては規範の理解促進を図るため全従業員を対象にクイズ形式によるトピックスを月例で配信するなど継続的な啓発活動を実施しております。また、倫理・コンプライアンス委員会を定期的に開催し、教育活動の施策決定、再発防止策の検討

策定など諸活動を推進しており、当期においては4回開催しております。また、新任管理者、新規採用者など職種/階層別による研修を実施し、グループ全体のレベルアップを図っております。なお、企業活動の中で各種法令や規範等に抵触するような事項および判断が困難な事項等に早期に対処できるように、専用メールや電話により直接相談を受け付ける「倫理・コンプライアンス相談窓口」を、社内および社外の弁護士事務所に設置するなど体制を整えています。

情報セキュリティ

当社はCCBJIへの全業務およびITインフラの統合を主眼に置き情報セキュリティに関する基本ルールとして「情報セキュリティポリシー」を定め、継続的に情報管理体制を整備・強化しています。また、2020

年の世界的なスポーツイベントにおける飲料供給という重要な使命のもと、増加するであろうと予測される、サイバー空間における新たな脅威に対しても、着実に対策を進めております。

リスクマネジメント

当社は、全社的なリスクマネジメントの核として、①エンタープライズリスクマネジメント(ERM)、②インシデント・マネジメント&クライシス・レゾリューション(IMCR)、③エマージェンシー・プランニング(EP)、④事業継続計画(BCP)の仕組みを構築・運用しています。各々の項目については取締役会等と

連動し、関連する部署、管理職、従業員および取引先が自律的にリスクマネジメントを運用することができるよう、コミュニケーション、教育訓練、手順・ルール・基準の改善、必要な経営資源の投入等を順次計画し、実行しています。

